２０２６年度　東京都立大学大学院
人文科学研究科　入学試験
（９月入試）

教室名（分野名）	社会学　教室
課程	博士 前期課程
試験区分	☑　一般学生 □　外国人特別学生（留学生）
試験科目名	言語科目（英語）
出題の意図	I. 社会学分野の文献を読むために必要な英語の力を問う問題である。 II. 社会学分野の文献を読むために必要な英語の力を問う問題である。 III. 社会学分野の文献を読むために必要な英語の力を問う問題である。 IV. 社会学分野の文献を読むために必要な英語の力を問う問題である。

※公開している入試問題について、私的利用以外の目的で複製・転載・転用することを一切禁じます。

大学院人文科学研究科社会学分野 博士前期課程

2026（令和 8)年度入学者選抜 試験問題

2025 年 9 月実施

言語科目（英語）

受験生は、下記の注意事項をよく読んで解答せよ。

1. 問題は I~IV の 4 題である。
   I、II、III、IV の各問題ごとに、答案用紙を 1 枚ずつ用いて解答せよ。
   （答案用紙の枚数は、受験生 1 人について計 4 枚である）

2. 答案用紙ごとに、必ず、受験番号と氏名を記入せよ。

3. 答案用紙はウラ面を用いてもよい。ただしウラ面を用いた場合はオモテ面にその旨を記せ。

4. 監督員の指示があるまで、問題を開いてはならない。

I 以下の英文を読んで問題に答えなさい。

問題本文は著作権上、ホームページに掲載することはできません。出典を参考にするか、東京都立大学南大沢キャンパス人文社会学部教務係の窓口で閲覧してください。

（出典: Greve, H. R., Rao, H., Vicinanza, P., & Zhou, E. Y. (2022). Online Conspiracy Groups: Micro-Bloggers, Bots, and Coronavirus Conspiracy Talk on Twitter. *American Sociological Review*, 87(6): 919-949.）

(1) 【A】を和訳しなさい

(2) 【B】の知見を日本語で述べなさい。

(3) なぜ【C】と解釈できるのか日本語で説明しなさい。

Ⅱ.

以下の文を読み、下線部を日本語に翻訳せよ。

（出典　Jon Parkin, 2007, *Taming the Leviathan*, Cambridge University Press.）

問題本文は著作権上、ホームページに掲載することはできません。出典を参考にするか、東京都立大学南大沢キャンパス人文社会学部教務係の窓口で閲覧してください。

III 以下の英文を読んで問題に答えなさい。

問題本文は著作権上、ホームページに掲載することはできません。出典を参考にするか、東京都立大学南大沢キャンパス人文社会学部教務係の窓口で閲覧してください。

（出典: VanHeuvelen, T. (2023). The Right to Work and American Inequality. *American Sociological Review*, 88(5): 810-843. 出題の都合で変更した個所がある。）

(1) 【A】とは何か日本語で説明しなさい。

(2) 【B】を和訳しなさい。

(3) 筆者らは【C】にはどのような問題があると指摘しているか、日本語で説明しなさい。

Ⅳ　次の英文を読み、下の問いに答えなさい。

問題本文は著作権上、ホームページに掲載することはできません。出典を参考にするか、東京都立大学南大沢キャンパス人文社会学部教務係の窓口で閲覧してください。

※出典

House, J. S., Landis, K. R. and Umberson, D., 2005, "Social Relationships and Health," Conrad, P. ed., *The Sociology of Health and Illness: Critical Perspectives 7th edition*, Worth Publishers.

ただし出題の都合、一部を改変している。

問1　下線部(1)を日本語に訳しなさい。

問2　下線部(2)はどのようなものか、1つずつ日本語で説明しなさい。

問3　下線部(3)を日本語に訳しなさい。

２０２６年度　東京都立大学大学院

人文科学研究科　入学試験

（９月入試）

教室名（分野名）	社会学　教室
課程	博士 前期課程
試験区分	☑　一般学生 □　外国人特別学生（留学生）
試験科目名	専門分野基礎知識
出題の意図	I. 社会学の理論と方法についての知識と理解を問う問題である。 II. 社会学の理論と方法についての知識と理解を問う問題である。 III. 社会学的知見からデータ・資料を読む力を問う問題である。

※公開している入試問題について、私的利用以外の目的で複製・転載・転用することを一切禁じます。

大学院人文科学研究科社会学分野 博士前期課程

2026（令和 8)年度入学者選抜 試験問題

2025 年 9 月実施

専門分野基礎知識

受験生は、下記の注意事項をよく読んで解答せよ。

1. 問題は I~III の 3 題である。
   I、II、III の各問題ごとに、答案用紙を 1 枚ずつ用いて解答せよ。
   （答案用紙の枚数は、受験生 1 人について計 3 枚である）

2. 答案用紙ごとに、必ず、受験番号と氏名を記入せよ。

3. 答案用紙はウラ面を用いてもよい。ただしウラ面を用いた場合はオモテ面にその旨を記せ。

4. 監督員の指示があるまで、問題を開いてはならない。

I

問１　次の（１）～（４）の設問について答えなさい。

（１）オーギュスト・コントの社会の再組織化の構想について、19 世紀のヨーロッパの時代状況を踏まえながら具体的に説明しなさい。

（２）ゲオルク・ジンメルは近代社会における貨幣の役割をどのように捉えたか、都市的生活の特徴を踏まえながら具体的に説明しなさい。

（３）ジョージ・ハーバード・ミードの「一般化された他者」の意義を、チャールズ・クーリーの二次集団の概念と比較しながら具体的に説明しなさい。

（４）潜在的逆機能について、例を挙げながら具体的に説明しなさい。

問２　理性啓蒙の限界というテーマは社会学のなかで幾度となく取り上げられてきた。具体的な社会学者を一人以上挙げながら、理性啓蒙の限界に対して社会学はどのように向き合ってきたか論じなさい。

Ⅱ

問１　次の①～⑦の社会学の専門用語の中から５つを選んで具体的に解説しなさい。

①近代家族
②弱い紐帯の強さ
③ジェントリフィケーション
④受苦圏
⑤社会の開放性
⑥層化二段抽出法
⑦交互作用効果

Ⅲ

次ページからの図表は、平沢和司（2014）『格差の社会学入門 ── 学歴と階層から考える』からのものです。

本書は、社会階層と社会移動全国調査（Social Stratification and Social Mobility Survey、以下 SSM 調査）をもとに、学歴と階層の分析を行っています。

表 1 は SSM 調査の職業分類です。著者は、ここで出身階層を父親の職業ととらえ、以下の分析を行いました。図 1 は父親の職業階層（SSM 総合職業分類）別に、回答者（男性）の高校進学率の推移を示しています。縦軸は高校進学率、横軸は回答者の出生コホートです。図 2 は図 1 と同様の形式で、父親の職業階層別に、回答者（男性）の大学進学率の推移を示しています。図 3 は出身階層別および成績別に大学進学率を示したものです。縦軸は大学進学率、横軸は父親の職業階層、折れ線グラフは回答者の成績を「1・2」「3」「4・5」の 3 区分に分けてそれぞれ示しています。なお、ここでの成績とは、中学校 3 年次のものを自由申告で 5 が最も良いとする 5 段階評価で回答したものです。

以上を踏まえて、次の設問に日本語で答えなさい。

問 1　図 1 と図 2 の比較からわかることを説明せよ。

問 2　父親の職業階層（SSM 総合職業分類）別に大学進学率を検討する場合、考慮する必要があることはなにか。

問 3　本図表を参考に、現代日本が抱える学歴と階層の課題を論じよ。

著作権上、ホームページに掲載することができません。出典を参考にするか、東京都立大学南大沢キャンパス人文社会学部教務係の窓口で閲覧してください。

著作権上、ホームページに掲載することができません。出典を参考にするか、東京都立大学南大沢キャンパス人文社会学部教務係の窓口で閲覧してください。

出典：平沢和司，2014，『格差の社会学入門 ── 学歴と階層から考える』北海道大学出版会．

（一部改変）

２０２６年度　東京都立大学大学院

人文科学研究科　入学試験

（９月入試）

教室名（分野名）	社会学　教室
課程	博士 前期課程
試験区分	☑　一般学生 ☐　外国人特別学生（留学生）
試験科目名	論文
出題の意図	自身のこれまでの研究をふまえ、博士前期課程入学後の研究テーマ・計画を適切に立案・表現する能力を問う課題である。

※公開している入試問題について、私的利用以外の目的で複製・転載・転用することを一切禁じます。

大学院人文科学研究科社会学分野 博士前期課程

2026（令和 8)年度入学者選抜 試験問題

2025 年 9 月実施

論文

受験生は、下記の注意事項をよく読んで解答せよ。

1. 答案用紙に、必ず、受験番号と氏名を記入せよ。

2. 監督員の指示があるまで、問題を開いてはならない。

3. 解答は答案用紙の両面 1 枚以内にまとめよ。ただしウラ面を用いた場合はオモテ面にその旨を記せ。

大学院入学後に行う自身の研究テーマを、以下の事柄に触れつつ論じてください。

1）自身のこれまでの研究（卒業論文を書いたことがある人は卒業論文を、卒業論文を課せられていない大学出身者は大学時代に自分で調べたこと）の説明。

2）自身の研究テーマを研究したいと考えた動機。

3）自身の研究テーマに関する先行研究。

4）どのような方法を用いて研究するのか。